

中津市公立保育所におけるICTシステム導入に係る 取り組みと保育現場での活用について

大分県本部／中津市職員労働組合 中野 有紀

1. はじめに

近年、保育現場でも導入され始めているICTシステムは、“子どもたちとの向き合う時間の確保および保育の質の向上”が目的とされており、全国的にも注目されています。

中津市公立保育所のICT導入における現状や日々の取り組みを振り返り、今後の課題について考えていきます。

2. ICTシステムに係る中津市公立保育所の現状

中津市公立保育所では、2022年度中に少しずつ導入に向けての取り組みが進められ、年度末までに8園のうち3園のみ（自園である第五保育所含む）ICTシステム（保護者向けアプリ『コードモン』）の導入が実現しました。予算の関係上、初めから全園での導入は難しかったというのが“3園のみ”の理由です。

対象となった3園は、各園なりの進め方を基本としながら、日々の業務の合間や職員会議の場等で、職員同士で話し合い運用する内容を決めたり、保護者への説明を行ったりして運用前の準備を進めていきました。実際に運用開始できたのは、早い園でも2023年度4月、遅くとも8月以降となりました。

残り5園は、2024年度4月以降の導入で、初めの3園とは異なる“ベーシックプラン”という少ない機能でのスタートでした。2025年度4月にはその内3園は使用可能機能を増やすこととなり、残り2園はベーシックプランのままであるというのが現状です。

8園全体で足並みがそろっているとは到底言えない状況の中、デメリットを感じる声が多く聞こえ始め、“導入し運用する”という同じ目標に同じ熱量で取り組むことがとても難しい状況となっていました。「なぜ今保育所にICTシステムが必要なのか」という根本的な考え方を見直す必要性が出てきたことや、各園での取り組みには限界があることも感じ、8園全体での『ICTシステム運用操作研修会』の開催へと繋がっていきました。

3. 取り組み

・自園（第五保育所）での取り組み

導入前には、活用方法を園全体で一つ一つ決め確認しながら、スモールステップで出来ることから進めていきました。ログインの仕方の確認や、職員会議では職員がパソコンを見る時間帯、機能の使い方、保護者との連絡の取り方、アプリと今までのやり方との併用の仕方等を話し合いました。

指導計画、出席簿、0歳児の連絡帳、園日誌、登園許可証などの資料は、慣れるまではアプリ内で済ますことなく、用紙に手書きをしたり、パソコンで資料を作ったり、保護者にも紙で配布したりしていました。必要なものは、今でも紙ベースでやり取りすることがあります。

また導入初期は、簡単な機能、すぐに使えそうな機能から運用するようにしました。各クラス担任が、タブレットパソコンやアプリの操作に慣れてきてから、次に取り入れる機能についてアプリ内のマニュアルや運営会社のzoom研修を活用して勉強したり検討したりして、2年間余りで少しずつ増やしていきました。

・ 8園全体での取り組み

第1回ICTシステム運用操作研修会（2024年度2月）を開催するにあたり、第五保育所がモデル園の役割となって、ICT担当が自園の取り組みについて全体に向けて説明をしていきました。その後、自園の常勤職員10名が、残り7園7グループとして分かれたところに講師役として入り、進捗度合いに合わせた対応で質問に答えていくという形式で会を進めていきました。各グループの講師を務める保育士に、各保育所の稼働状況を把握できるように作成した一覧を共有して、そのグループに今必要な情報は何かを事前に知らせてから行うようにしました。

研修会第2回（2025年度4月）は各園のICT担当保育士1名程度が集まり、質問項目ごとに分けたグループとなり、前回よりも一歩進んだ内容で検討していく形式で行いました。この頃から、「思っていたよりもICTの活用が楽しい」「便利で日々助かっている」「他の機能も使ってみたい」という前向きな声が上がっていききました。

2025年度6月末までに、“ベーシックプラン”を使用する2園以外の6園にてICT用タブレットパソコンでの環境整備が充実してきたことから、各保育所の運用もスムーズになっていきました。それに伴い研修会第3回（2025年度9月）を行いました。独自に作成した“チェックリスト”で運用に関する振り返りを事前に行ってから参加するようにしました。書類作成を紙ベースからデータベースへ移行する上で不都合や不具合な箇所がないか、運用する上での困り事をそのままにしていなか等、細やかに確認を行う個別対応の研修会という形式で行いました。

3回の研修会を終え、職員全体の意識は格段に向上していきました。職員の中で初めはマイナスイメージだったICTシステム導入ですが、今では少しずつ『業務の負担を軽減できる便利なもの』『コミュニケーションツール』という認識に変化していっています。

当初は、8園のICTシステム導入に対する思いや方向性のばらつきが大きいことから、全園で使用する機能や操作方法を統一するという目標に重きを置いて研修会を開催していました。結果的に、出来る限りの機能や操作方法的統一は可能ではありましたが、各園の以前のやり方を残していく方法で日々の業務に馴染ませていくことが、保育士や保護者にとって最善策であると感じました。

・ ICTシステム導入がきっかけで始めた『保育ドキュメンテーション』の機能

『保育ドキュメンテーション』とは一般的に、子どもの様子を写真やコメントで記録し、子どもが何を学び感じているのかをその記録を通して保護者と共有したり保育者同士でも情報共有できたりするツールで、保育の質の向上を図るものとされています。

近年、様々な研修会等で話題となっはいましたが、ICTシステム導入以前では“通常業務以外の手間のかかる業務”というイメージで取り入れる機会を中々持てずにいました。しかし、アプリ機能の一つにそれがあることを知り、“以前からしている業務に置き換え”ができたので、8園全園にて取り組み始めることができました。

この機能を使用するにあたり、あくまでも“置き換え”が大前提で、機能の中でも使う項目を厳選しています。操作方法を覚えさえすれば、職員の負担にならずとも保護者との連絡がより密になり、風通しの良い保育の実現に近付けているように感じています。

4. メリット・デメリットについて

ICTシステムには、“保育士の業務負担軽減”“保護者とのコミュニケーションの改善”“園児の安否確認ができること”“職員間での手軽な情報共有”という、一般的に謳われているメリット・デメリットもありますが、中津市公立保育所8園で上がっている声は以下のようなものがあります。

【メリット】

- ・ 手作業の事務作業を簡略化できる。出席簿の計算など間違いが減った。
- ・ 保護者とのやり取りがスムーズになった。保護者からの連絡が一覧になって表示されるので、手書きでメモを取る時間を削減できている。
- ・ 保護者とメールでのやりとりができるので、電話の使用頻度が減り時間を短縮できている。
- ・ 指導案では例文もありとても参考になる。手書きの時よりも修正が簡単で綺麗に仕上がる。
- ・ ペーパーレスになる。書類がまとまるので後から見やすく、監査のときにも提示しやすい。
- ・ 園だよりや行事のお知らせ等を配信できるので、紙で配布していた時のように、渡しそびれたり無くしてしまったりすることもない。

- ・登降園管理の機能で、保護者と共有しながら子どもたちを安心安全に預かることが出来る。
- ・保育研修機能で動画を見ることができるので、知りたい情報をすぐに入手できたり、園内研修の充実にも繋がったりしている。
- ・保護者に子どもの様子を気軽に配信できて、保護者にも喜んでもらったのが良かった。写真を送れるので、様子を伝えやすい。

【デメリット】

- ・パソコンが苦手で、中々操作方法を覚えられない。
- ・覚えたり、一つの操作が完了できたりするまでに時間がかかる。
- ・保護者から必要な連絡事項が送られてこない。
- ・導入時の各園でのルール設定が甘かった為、後から変更する際に保護者の理解を得にくい。

初めはデメリットであるという声が多くありましたが、導入され実際に操作をしてみるうちに、メリットを感じる声が多くなっていきました。特に、8園全体でのICT運用操作研修会を行う前までは、「今までのやり方を変えたくない」「パソコン操作が苦手」「覚えられない」「面倒」などのネガティブな意見ばかりでしたが、研修会後には「自分にもできそうな気がする」「意外と簡単だった」「もっと早く挑戦してみればよかった」「パソコンでの保護者とのやりとりが楽しい」という声がありました。

デメリットに関しては、通常業務に加え新しい業務として追加されたICTシステムが、中々浸透していない現状もあるという声でした。慣れない操作に掛かる時間が長く、“子どもたちとの向き合う時間の確保”を目的としているのにうまくいかないのは、ストレスに感じるのも無理がないです。また、保護者の理解と協力の上で成り立っているのも、今までとは異なる方法について園から丁寧に説明をし、きちんと毎日連絡を取り合うという流れが出来上がるまでに、何度もやり取りを繰り返してやっと生活に馴染んでいきます。お互いに時間と労力を費やすので、根気が必要になると感じています。

5. まとめと今後の課題

中津市公立保育所がICTシステムを導入することで感じたメリットは、デメリットを上回ってきているように感じています。初めは様々なマイナス意見が飛び交い、導入自体難しい状況でしたが、「勇気を出して新しいことにチャレンジしたい」「日々の業務効率を良くしたい」という同じ思いの仲間が8園の公立保育所にはいて、お互いに協力し合えば高め合えると気付くことができました。分からない時に「分からない」と言えたり、聞きたい時にすぐに頼れる相手がいたりする心強さは、どのような困難な場面でも支えになってくれます。

年々、保育所に求められていることが大きくなり、その分保育士の負担が増えています。8園はどの職場も正規職員が少ないことで、一人当たりの通常業務が多く追われるように過ぎていく毎日ですが、ICTシステムを導入したこと自体やその過程での取り組みを通して、新しいことへ挑戦する大切さを感じたり、これからの保育現場に必要なものを考え直すきっかけになったりしました。業務内の必要なもの不要なものを見直し効率の良いものに少しずつアップデートさせていくことで、保育の質を担保しながらも、私たち自身が働きやすい職場をつくっていくことが出来ていくと感じます。そうすることで、本当の意味での“子どもたちとの向き合う時間の確保および保育の質の向上”について向き合えていくように思います。

これからも中津市公立保育所8園は、互いに協力し助け合いながら、地域の子育て実態や保育ニーズ等に見合う切れ目のない子育て支援が行っていけるよう、また、高い専門性を身につけ子育て家庭に還元していけるよう努めていきます。その中で、ICTシステムの更なる有効的な活用方法を見出し、“保育の可視化・風通しのよい保育”が実現できるように、日々取り組みを続けていきます。